

2021年11月12日

厚生労働大臣 後藤 茂之 様

一般社団法人 日本小児神経学会  
理事長 岡 明  
薬事担当理事 中川栄二



## 抗てんかん薬の安定供給に関する要望書

てんかんは新生児から小児、成人、高齢者まで誰もがかかる可能性のある脳神経の慢性疾患で、日本では約 100 万人の患者さんがいると推定されています。てんかんの主な治療法は薬物療法で適切な診断と治療法により 7~8 割のてんかん患者さんの発作症状を抑制することができます。

このてんかんの薬物療法において、長らく代表的な薬剤として使用されてきたものに、バルプロ酸ナトリウム (Sodium Valproate) とカルバマゼピン (Carbamazepine) があります。現在でも、世界中で最も多くの処方が行われている抗てんかん薬です。

これらの抗てんかん薬について、昨年末からの後発医薬品企業への行政指導などの影響から、複数の製薬企業において出荷調整や欠品となる事態が始まっています。点検による製造過程の見直しや製造工場の地震による被災などが重なり、バルプロ酸ナトリウムとカルバマゼピンに関しては、かなり深刻な供給不安定の状態となっています。

日本小児神経学会としましては、厚生労働省や製薬企業へ早急な状況改善や供給不安定の再発防止のため下記の要望を提出いたします。

1. バルプロ酸ナトリウムとカルバマゼピンの安定供給により、適切なてんかん医療が維持されるように指導をお願いします。

抗てんかん薬 (バルプロ酸ナトリウムとカルバマゼピン) が、製薬企業の出荷調整などによって、さらなる供給状況の悪化が起こらないよう製薬企業および業界団体に対して指導をお願いします。

2. 一般市民にも適切な情報が届くように、広報をより充実させてください。

処方薬については、主治医やかかりつけ薬局から情報を受けることになっていますが、一般市民に不安が助長されないためにも、適切なくすりの情報が常に公開され自由に閲覧できる方法についても、分かりやすく広報をしてください。

以上